

複眼的に読み解く力を

県立長崎北高の第1回卒業生。生徒会長を務めた1年時は東京五輪の年。前後の高

県立大学の挑戦

「新任教員」紹介⑫完

PR

度経済成長は福祉国家づくりを支え、所得と医療水準が上がって国民は豊かで長生

地域創造学部 実践経済学科



【プロフィール】

東京大法学部卒。厚労省大臣官房審議官（介護保険実施推進本部事務局長）、老健局長、社会保険庁長官を歴任。前職は大阪大大学院教授。担当科目は「社会政策論」。長崎市出身

つつみ 堤 修三 特任教授 (67)

きになった。そして、社会保障費も膨らんだ。

厚生労働省では老人保健、介護保険両制度の創設と実施に中心的に関わり、日本の社会保障制度の屋台骨をデザインした。

いま、少子高齢化という構造問題がより深刻化。「これからの時代は下り坂を転ばないよう、そろそろと下りる感じ」。バラ色の未来を戒める一方で、「できることは何かを地道に探り、やっぴくしかない」。知恵の絞りどころだという。

学生に期待するところは大きい。「知識として覚えるのではなく、なぜこういう仕組みがあるのかと理解することが大事。物事を複眼的に見て、読み解いていく力を身に着けてほしい」

高校卒業後初めて、ふるさとに関わる。「これまで長崎に忘れ物をしたような感覚があった。心残りを5年間抱えて、今日に至った」。地元大学の新任教員として、学生、地域と向き合う。

AO入試出願期間
9月8日(木)～16日(金)

0956
(47)
5856